



# 大利中だより

5号 文責:校長 新莊悌男

## 「二学期始まる」

9月1日の始業式、次のようなことを話しました。「さて、今日は、「校訓」について話をします。大利中の校訓は「自主・創造・協調」です。この意味は、簡単に言えば、「進んで取り組み」「工夫をこらして」「気づき・行動する」ということです。

もう少し具体的に話します。

まず、「自主」についてですが、これは、自ら進んで奉仕の心を発揮することです。この自主性を阻むものの一つに、利己的な考えがあります。利己的になったら自主性は半減し心の成長は望めません。何とかこの利己心を押さえることが必要になるわけです。その効果的な方法が「私がします」という言葉を連発することです。これは「私がします」これも「私がします」それは「私がします」といったふうに・・・！ どうか二学期は自らの心にある利己心と闘ってください。期待しています。

次に、「創造」についてです。これは、学校での勉強や活動を工夫して、新たなやる気をつくることです。今までのやり方で、ただだとやることをマンネリ化と言います。マンネリ化になってしまうと、進歩のない状態が続き、結果的にねらいの達成度が小さくなってしまいます。そこで、一つの作戦です。作戦の名前は「トンボの目」作戦です。

トンボの目は、複眼です。人間である私たちも、今までとは違ったものの見方をして、やわらかい頭で考える複眼思考作戦です。例えば、右からだけでなく左から見たらどう見えるのかを考えたり、裏から見たらどうなのか、下からは？ 上からだったら？

そうやって多面的に考えることで、自分というものを、もっと広く大きく成長させてください。そのことが新たなやる気につながります。正解はありません。納得解に近づく努力を期待しています。

三つ目は「協調」についてです。

このことは、自問清掃の取組と同じです。「モクモク清掃」とか「黙動清掃」を行っている学校がありますが、「モクモク、黙動」と言われると、「話をしない」「黙って清掃する」ことがねらいです。私は、清掃を通して「おもてなしの心」を学んでほしいと思っています。「気づき、行動する」という生徒会のテーマのように、人の動きに気づき、そして自分に問いかけながら清掃してほしいと願っています。その際、おしゃべりはしないことになるので、「自問清掃」がぴったりの言葉です。正に、校訓の「協調の精神」が発揮できる場面であると思います。」

二学期の始めにあたり、校訓について話をしました。

この写真は、津波に襲われた宮城県志津川町の防災庁舎を見学している様子です。周辺は何もない状況です。



## 「大野城市中学生被災地派遣研修」

8月23日から4泊5日で、市内の10名の中学2年生が、東北の被災地に出向き、風評被害について学んだり、復興状況を見学したりしました。また、松島中学校(宮城県)と吉浜中学校(岩手県)では、震災当日の状況や中学生にできる防災準備等について意見交換を行いました。今回の研修を通して感じたことは、東北の方々は、一言で言えば「伝えてほしい」という思いが一番だったことです。例えば、「福島の果樹園では桃は安全で、自分の生産物に愛情を持ってうまさの追求をしていること」「福島のホテルでは、食材は毎日検査をしているのでどこよりも安全であること」「宮城県の松島では、観光客は以前と比べて80%、そこで、これまでの見る、食べる、遊ぶといった『るるぶ』から、体験する、交流する、学ぶといった『新るるぶ』の考え方でのおもてなしに転換しているということ」等でした。

詳しい報告は、中学生が後日、各コミュニティで報告します。そして、毎年お世話になっている吉浜中の村上洋子校長先生からは、震災から初めての正月に、大野城市からたくさんのお餅をいただいたことが一生忘れないとのことでした。予想もしない一番のプレゼントだったということで、大野城市の皆様によるしくお伝えくださいとのことでした。当時、各区の協力のもと、お餅を届けたことが、3年5ヶ月経った今でも感謝される、このことこそ、「絆」とであると確信いたしました。

